

## 第7回宮代町総合計画審議会議事録

### 1 開催日時

令和2年1月24日（金）午後7時00分～午後9時00分

### 2 開催場所

宮代町役場 202 会議室

### 3 出席者

（委員）

吉澤久美子委員、並木誠委員、秋山高善委員、佐々木敦子委員、  
佐々木誠委員長、保科寧子委員、高津絵里委員、八木橋孝雄委員、難波悠委員、  
鈴木和子委員、小林俊介委員、松山仁委員

（欠席）

折原正英委員

（事務局）

栗原企画財政課長、伊東副課長、榎本主幹、小川主査、立見主任

（関係課職員）

石塚まちづくり建設課長、高橋主査

（コンサル）

牧野氏、菊地氏

### 4 次第

1 開会

2 総合計画基本構想（素案）について（資料1、2）

3 その他

4 閉会

## 5 議事（要旨）

### （1）開会

### （2）総合計画基本構想（素案）について

総合計画基本構想（素案）について、事務局より資料1及び資料2に基づき説明を行った。委員からは以下のような質問や意見・提言があった。

高津委員 人と人とのつながりなどの部分はよいと思うが、医療に関することが触れられていないと感じた。ワークショップでも町内に小児科がほしい、駅前に病院が入ってほしいなどの要望が多かった。10年先を見据えた計画ということで、すぐに実現は難しいかもしれないが、足りない部分は近隣自治体と連携を図るなど、できることからでも対応していくことが示されるとよい。

鈴木委員 医療もだが福祉についても触れられていない。既に介護が必要な方が大勢おり、今後は認知症の方も増加していくと考えられる。公設宮代福祉医療センターについても、診察時間の延長や、在宅の方への訪問診療・訪問看護など、もう少し体制の充実を検討してほしい。

佐々木会長 医療・福祉については記載がないからといって何もやらないということではないが、総合計画の中でどう表現するかが問題である。医療に関しては確かに広域での対応も考えられる。

鈴木委員 宮代町の福祉は他と比較しても充実していると思うが、そのことを知らない方も多い。

佐々木会長 今のやり方を変えるというよりはPRの問題ということかもしれない。

吉澤委員 先日の台風被害を踏まえると、災害対応などの防災や安心の面、また、社会保障の面として子どもの教育、障がい者の活躍などについては触れなくてもよいか。

佐々木会長 具体的にどこが足りない、どこを伸ばせばよいなどイメージはあるか。

吉澤委員 現状がダメということではないが、自分は福祉施設で働いているため、いざ福祉避難所を設置する必要が発生した場合を考えると、福祉課の職員が通常の避難所にたくさん配置されているような状況で、福祉避難所を設置するチームが組めるのか不安がある。また、民生委員が自治会を通じて障がい者など要配慮者の登録制度を運用してはいるが、なかなか情報がつながりづらいと感じる。自治会と町の所管課との連携も十分なのかどうか分からない。横のネットワークをどのように構築していくかということが課題ではないか。

高津委員 先日の台風で周辺が冠水した笠原小学校は避難所から外された。近くに子どもがもしいたら、避難できなかつたらと考えると、そういった災害時に危険な場所を優先的に整備するべきではないか。そうすることで安心に

つながるのではないか。

佐々木会長 医療・福祉、防災など命に係わる重要な分野だが、福祉についてはPR不足、医療については広域連携などの視点があげられた。これらを未来に向けたアイデアと結びつけることができればよいが、今後議論を深めていければと思う。

それではコンセプト1についてはいかがか。コンセプトの中には東武動物公園や日工大について言及されているが、戦略の中にはそれらの文言が見当たらない。市民ワークショップでは東武動物公園と日工大についてかなり意見があがっていた。大学側も地域貢献に力を入れていこうという流れになっているので、大学との連携などについても戦略の中で触れてもらえれば大学としても動きやすいと思う。

八木橋委員 「宮代らしさ」の中に姫宮、和戸の要素も入れなくてよいのか。現状、東武動物公園駅西口周辺エリアしか宮代らしさとして表現されていない。戦略AもBも西口周辺のことである。川や堀など、和戸、姫宮の良いところも表現に加えてはどうか。例えば「水」のキーワード、運動公園やその裏の川にはたくさん鳥がいることなども宮代の良さ、らしさになると思う。

佐々木会長 例えば自転車移動に適したフラットな地形も良さではないか。和戸、姫宮には新しい村、東武動物公園のような資源はないが、うまく良さを表現できれば。

八木橋委員 はらっパークも立派な施設だと思う。

秋山委員 戦略Aで「農」の資源と表現されているが、山崎山は農といえるのか。ここにある要素を踏まえると「農」よりはもっと広いのではないか。

八木橋委員 大きくいえば「癒し」の資源か。別に人と人の交流がなくてもそこにあって住民の癒しにつながる資源ということではないか。「農」というと生産的なイメージが入ってくる。山崎山のような自然は生産の場ではない。

事務局 かつては農を含む生活を支える生産の場として共有資源だったのだろう。

佐々木会長 いわゆる里山ということだと思う。かつての里山の環境を残して、そのなごりを享受しつつ未来へ向けて活かしていくということではどうか。

松山委員 「水と緑」でよいのではないか。河川が水、田んぼや雑木林が緑。里山だと水の要素が入らない。

佐々木会長 水と緑は宮代全体を表す要素といえる。もう一つ戦略を加えて川、水の要素を足してもよいかもしれない。戦略Cはコンセプト1に限らず、全体に関わることも考えられるが、表現の仕方や位置づけについて検討の余地があるのではないか。

それでは次にコンセプト2についていかがか。

- 難波委員 「コンパクトな町の強みを活かす」ということであれば、町内に駅が3つあることに触れなくてもよいのか。
- 事務局 戦略Dで東武動物公園駅周辺以外のエリアも念頭に置いているが、もう少し広がりをもっと表現できればと思う。
- 秋山委員 3つ駅があることは宮代にとってどんなメリットがあるのか。駅は住民にとって必要不可欠なものなのか。多くの住民は車移動のためほとんど電車を使わないはずで、通勤利用者以外の住民にとって駅がどれほどの生活拠点となっているのか。
- 松山委員 それぞれの駅の乗降客数はどうなのか。
- 事務局 東武動物公園駅は一日平均で約32,000人、和戸駅は約4,000人、姫宮駅は約5,000人となっている。
- 吉澤委員 バスがあまりないので学生には駅は重要と思う。
- 高津委員 笠原小学校の一部児童は学区を変更して電車通学している子もいる。ただ、駅から学校までの間の活気がないという声はワークショップでも多かった。
- 難波委員 今後免許返納が進んだ場合、やはり駅は拠点になるのではないかと。
- 事務局 宮代町は細長く、真ん中を鉄道が通っているため、比較的中心部に来やすいということはあると思うが、今後さらに高齢化が進むと駅にも出られない方が出てくる可能性はある。また、通勤利用者も減少しており、かつてのようなベッドタウンではなくなりつつある。
- 秋山委員 真ん中に行く意味があるのかということ。高齢化が進展する中で、行政のあり方として、来てくださいという姿勢でいいのか。必ずしも出張所のようなものが必要ということではないと思うが、何らかの形でアクセスのしやすさに取り組んでいく必要はある。10年後を考える時に、現状をベースに考えるだけでいいのか。
- 佐々木会長 市民ワークショップに参加して感じたのは、やはり皆どこかに出かけたいということ。宮代の中なら東武動物公園周辺になると思うが、都心に行く機会もある。潜在的な部分で駅は重要視されているような感じはする。
- 八木橋委員 それぞれの駅に地域の住民が集まれるような場があるといい。電車に乗ることが目的ではなく、集まって話ができる場として駅や周辺の空きスペースを活用できれば、町内に駅が3つあるのは強みになる。
- 佐々木会長 どこまで具体的に書けるかわからないが、駅が3つあることをどう考えるかという視点は盛り込んだ方がよさそうである。また、コンセプト2とコンセプト4の戦略Iは関連が深いと思われるので、そのことを補足する表現を加えてもよいのではないかと。
- 難波委員 冒頭で意見が出た安心・安全の分野について、コンセプト2に位置付けてもいいのではないかと。
- 佐々木会長 どこかに位置付ける必要はあるかもしれないが、コンセプト2が適切かどうか。コンセプトとは別枠で言及する形でもよいのではないかと。

それでは次に、コンセプト3についていかがか。戦略Gはテーマ性、戦略Hは多様性がキーワードになると感じたが。戦略Gのプラットフォームはやや具体的なイメージが湧きづらいような気もするが、この言葉を使った意図は。

事務局　　これまではその時々の問題、課題に合わせて行政が参加者を募集するような形が一般的だったが、そうではなくてここでは常に人が集まることのできる常設の場や仕組み、土壌を作っていくイメージでプラットフォームという言葉を使った。小さな集まりや会は既にあるのかもしれないが、いつどこで誰がどういうことをやっているかまでは共有できていないし、まだまだ物足りないのではないかと思う。

保科委員　　地域福祉や高齢者福祉の分野でも、国や県から協議体をつくるように働きかけがなされており、自治会、民生委員、やる気のある市民、学校の生徒まで、地域住民が主体となり、高齢者の手助けや買い物の支援などを担うチームを作ってほしいということである。市民が助け合う組織を地域ごとに特色を出してやってくださいということだが、このプラットフォームはそういった組織や体制とはどのように関連するのか。福祉関係の部署で既にそういう流れで動いているのであれば、横の連携を深めるべきではないか。高齢者福祉、地域包括支援センターとも連携した戦略としてはどうか。

八木橋委員　　課題に対する活動というのはスタート地点がマイナスの感じがする。課題解決のための活動ではなく、宮代で前向きに楽しく充実した生活を送ろう、というような方向性にできないか。

松山委員　　ワークショップは非常に良かったと思うが、テーマが広すぎて漠然としていた。もっとテーマを絞って町が誘導する必要があるのではないか。例えば子育て、福祉などについて、広報で参加者を募集すれば興味のある人が集まると思う。暇な高齢者が集まってどのように老後を充実させるか、何ができるか話し合える場があれば埋もれた人材の発掘・育成や、自分で言ったことには責任を持たなければならないので住民参加にもつながるのではないか。

佐々木会長　　確かに課題解決の部分は町が誘導する必要があるのかもしれないが、一方で前向きな活動についてはやりたい人が自然に集まるような方向性も考えられるのではないか。

松山委員　　ただ、地区ごとにやるとその地区の陳情になってしまうので、話し合いの場を設けるのであれば町全体としてテーマを設定したほうが良い。

佐々木会長　　住民参加については、計画の中で触れられているようで実はあまり触れられていないのではないか。

難波委員　　戦略Iに産学官の連携とあるが、ここに市民を入れてもよいのではないか。

佐々木会長　　戦略Iに入れるかどうかは別として、確かにここは市民の要素は抜けているかもしれない。

- 鈴木委員 市民が主体となった地域社会をつくりましょう、という方向性にもっていきたい。何でも他人事のように感じている住民が多い。一部の人たちだけが頑張るのではなく、多くの人に訴えかけて活動に加わってもらえるような内容にできないか。
- 佐々木会長 市民主体が理想とは思いますが、個人的に現実は難しいと感じる。
- 鈴木委員 仰る通り、計画の評価を見ても活動の担い手やキーマンがいないなどの課題があげられている。
- 事務局 行政が社会的な問題・課題を解決するために住民に呼びかけて何かを実施するよりも、住民が楽しくてやりたいことを突き詰めてやっているうちにその分野のプロフェッショナルになり、結果的には社会に貢献する活動につながっているようなケースの方が多く、活動の継続性もある。
- 佐々木会長 やはりやる気やアイデア、行動力があり、周りに影響を与えるようなクリエイティブな市民の存在が重要である。クリエイティブな市民は比率としては少ないと思うが、そういった人たちをいかに巻き込んで育てていくか。
- 難波委員 戦略Gは「活動を生み出す…」としているが、どんな活動を生み出すのか分かりにくい。「市民主体の活動」など、活動の前に具体性のある枕詞があったほうがいいのかもかもしれない。
- 佐々木会長 その他なければコンセプト4に進みたい。
- 難波委員 医療に関連して広域連携の話が出たが、コンセプト4のどこかに加えてもよいのではないか。
- 秋山委員 戦略Kの「横断的行政運営」に関わる部分と思うが、ここでは町の中だけの話になっているようだ。
- 佐々木会長 確かに町の中だけの話ではなく、広域連携的なニュアンスを加えてもよいかもしれない。医療に限らず、公共施設の相互利用や鉄道沿線自治体での連携なども考えられる。
- それでは一通り最後まで議論ができたので、全体を通して感想でもよいので何かあれば。
- 佐々木委員 コンセプト3に関連して、イベントなどを自由参加の実行委員会形式でやると、皆ボランティアで3～4人の少ない人数で運営することになる。同じような団体が横でつながれば相互に協力できるのではないかという話もあるが、実際はそこまでの連携はできていないのが現状である。やりたい気持ちのある人たちが、長く活動を続けられる仕組みがないと短期間で終わってしまう。活動を継続していくことの難しさを感じている。楽しさが勝らないと続けていくのは辛い。
- 佐々木会長 行政として何かサポートできることがあれば、計画に書き込んだ方がいいと思うがいかがか。
- 八木橋委員 山崎山の保全の取組みでは、自分はクヌギの原木でシイタケ栽培、たまにはバーベキューなど、楽しみを自分達で作るようにしている。また、何

のために山を保全するのか、将来の子どもたちに自然を残すためにやっているんだということを、参加者同士で共通の認識として持っていれば続けられる面がある。お金がもらえれば問題ないかもしれないが、見返りがないうちでのボランティアは確かに疲れる。目的がしっかりしていることが重要である。

佐々木会長 安くてもお金を回す、副業になるくらいでもいいと思う。宮代町はボランティアに頼っている部分が多い。きちんとお金を回して町外からも人を呼び込んだりできれば税収につながるかもしれない。その意味で戦略Ⅰにはもう少し事業者のニュアンスが入ってもいいのではないか。今後のボランティアのあり方については、一度考えてみるべきかもしれない。

小林委員 コンセプト3には市民主体の活動について書かれているが、プラットフォームという言葉はもう少しわかりやすい言葉に置き換えた方が伝わりやすいのではないか。戦略Hの「集まる“場”」、戦略Jの「遊休スペース」などもプラットフォームと被る気がするので、もう少し具体的で伝わりやすい表現があれば。

並木委員 先ほど駅が3つあることの強みを出したくても、和戸、姫宮の周辺は何もないという話があった。コンセプト2の戦略F「顔の見える地域経済をつくる」を考えた時、やはり和戸、姫宮の周りはシャッターが閉まっている店が多いという現実がある。また、市民参加についての議論があったが、戦略Hや戦略Dと絡めて、クリエイティブな市民を活用・連携していくような方向性が考えられないか。

松山委員 クリエイティブな市民でなくてもいい。いかに住民の参加を促していくかを議論していくことが重要ではないか。特技がなくてもかまわない。高齢者の送迎ができるというだけでも十分。やりたい人、暇な高齢者はたくさんいるのに散歩しかやることがないのはもったいない。戦略Fにあるように、元気な高齢者をもっと活用すべきだ。高齢者人材のデータベースを作成してもっと高齢者の活用を図るべきではないか。

高津委員 新たなシステムを一から作るのではなく、例えば町が誰かやってくれる人はいませんか、というようにSNSで気軽に募る、または町民も自分ができることを気軽にSNS発信するなど、今あるツールを使ってやることもできるのではないか。知らない人をお願いするのに抵抗があるのであれば、一度顔合わせの場を設定するなど、できるところから始められないか。

佐々木会長 ニーズとのマッチング、乗り合いタクシーなどのシェアリングエコノミーの仕組みづくりのような話だと思う。松山委員の提案の実現にもつながりそうな話である。

松山委員 一部の人がいくつもの役割を兼務して一生懸命やっているのはわかるが、大部分の人は無関心。移動手段もなく、情報も届かなくてシルバー人材センターのことを知らない、ボランティアの意義もわからないという人はたくさんいる。皆が楽しく参加できる仕組みが必要。

高津委員 春日部では防災メールに登録していると、子育て支援の情報や市民講座の情報を配信してくれるようだ。宮代でも一つメールアドレスに登録しておけば色々な情報を届けてくれる仕組みがあればいい。現状は防災メールを知らない方も多い。

佐々木会長 情報発信は横断的に関わってくることである。戦略Cに宮代を発信していくとあるが、外向けだけでなく町内へ向けた情報発信も重要である。

難波委員 戦略Cでは発信の具体的な方法は言及されていないようだ。ツールの話ではなく、従来型の広報や公式な発表以外の発信方法も活用していくことが必要なのではないか。

佐々木会長 ロコミなど、インフォーマルな情報手段もあっていいということか。

### (3) その他

事務局より、今後の会議、フォーラムの日程について案内があった。

### (4) 閉会

以上